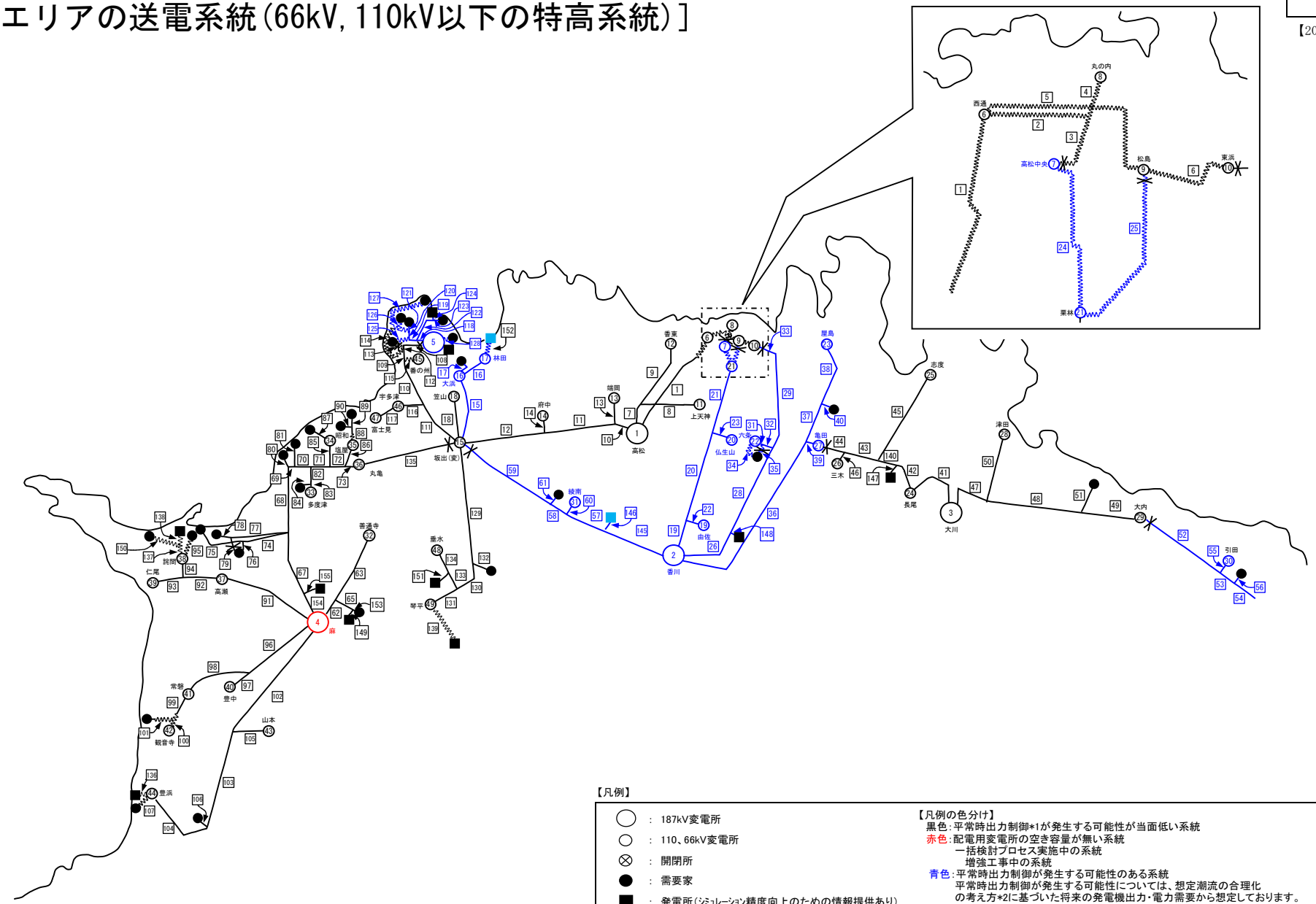
[四国エリアの送電系統(66kV,110kV以下の特高系統)]

香 川 県

【2026年11月1日更新】



【凡例】

- ◯ : 187kV変電所
- ○ : 110、66kV変電所
- ⊗ : 開閉所
- ● : 需要家
- ■ : 発電所(シミュレーション精度向上のための情報提供あり)
- ■ : 発電所(上記以外)

[□内数値は送電線番号、○内数値は電気所番号を示す]

- ——— : 110、66kV送電線
- ——— : 22kV送電線

(WWWW は地中線を表す)

【凡例の色分け】

黒色:平常時出力制御*1が発生する可能性が当面低い系統

赤色:配電用変電所の空き容量が無い系統
一括検討プロセス実施中の系統
増強工事中の系統

青色:平常時出力制御が発生する可能性のある系統
平常時出力制御が発生する可能性については、想定潮流の合理化の考え方*2に基づいた将来の発電機出力・電力需要から想定しております。

*1 系統容量の制約による出力制御

*2 https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330_souteichoryu_gourika_shiryou.html

(留意事項)

今後の増強工事等を反映した設備がある場合、工事等の完了までの間は記載内容と異なる場合があります。
対象設備については一覧表の備考欄をご確認ください。

転載禁止　四国電力送配電株式会社

【留意事項】

(1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。
※1 1回線送電線（1バンク運用）のため1回線（1バンク）設備容量を記載
※2 3回線送電線（3バンク運用）のため1回線（1バンク）故障時を考慮し2回線（2バンク）分の容量を記載
※3 4回線送電線（4バンク運用）のため1回線（1バンク）故障時を考慮し3回線（3バンク）分の容量を記載

(2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。

(3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因（電圧や系統安定度など）で連系制約が発生する場合があります。

(4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。なお、N-1電制は費用便益評価により設置判断されるため、N-1電制適用可であっても、設置されるとは限りません。また、適用不可の場合の理由は以下のとおりです。
＃1 1回線送電線のため
＃2 配電用変電所のため
＃3 2回線送電線の分割運用等のため
＃4 1バンク変電所のため

(5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量（上位系考慮なし）の目安を記載しております。

(6) 平常時出力制御が必要となりうる設備欄は、平常時出力制御が発生する可能性について、想定潮流の合理化の考え方＊に基づいた将来の発電機出力・電力需要から想定し、該当設備を記載しております。
＊https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330_souteichoryu_gourika_shiryou.html

(7) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。

(8) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。

(9) 既設電源アクセス線に新規電源が連系する際、系統増強が必要になる場合があります。詳細については、系統アクセス検討の中でお示しします。
※電力広域的運営推進機関が公表している「系統の接続および利用ルールについて～ノンファーム型接続～＊」でも、新規電源連系時のアクセス線等の取扱いが整理されています。
＊https://www.occto.or.jp/grid/business/setsuzoku.html#non-firm

(10) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開しておりません。

(11) 個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量、運用容量値、N－1電制適用可否、N－1電制適用可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。

(12) 潮流値は、アップ潮流最大時の潮流を現時点で想定される条件において算出したものであり、実際の潮流値と異なる可能性があります。

(13) 個別需要が分かる専用線等や電源が1ユニットのみの電源線については第三者情報を排除するよう加工処理をしております。

(14) 予想潮流の数値は、潮流方向に記載している向きを正数として記載しています。また、変圧器予想潮流の数値は、高圧側から低圧側に流れる方向を正数として記載しています。

(15) 当社の公開する系統アクセス情報を利用される方が本情報を用いて行う一切の行為について、当社は責任を負いません。

(16) ノンファーム型接続適用外の設備には、備考欄に“●”を記載しております。

送電線No	送電線名	電圧(kV)	回線数	設備容量(100%×回線数)(MW)	運用容量値(MW)	運用容量制約要因	潮流方向	予想潮流(MW)	空容量(MW)		N-1電制適用可否	N-1電制適用可能量(MW)	平常時出力制御の可能性	平常時出力制御の可能性がある設備		備考
									当該設備	上位系統考慮				当該設備	上位系設備	
1	西通線	66	4	380	285	熱容量	変1→変6	17	－	－	可	95	－	－	－	※3
2	西通中央線	66	3	150	50	熱容量	変6→変8	2	－	－	不可＃1	－	－	－	－	※1
3	西通中央線	66	3	84	28	熱容量	変6→変7	0	－	－	不可＃1	－	－	－	－	※1
4	丸の内支線	66	3	57	19	熱容量	変6→変8	2	－	－	不可＃1	－	－	－	－	※1
5	西通松島線	66	2	190	95	熱容量	変6→変9	2	－	－	可	95	－	－	－	
6	松島東浜線	66	2	80	54	熱容量	変9→変10	-4	－	－	可	26	－	－	－	※1*1
7	上天神線	66	2	394	197	熱容量	変1→変11	-19	－	－	可	197	－	－	－	
8	上天神線	66	2	200	100	熱容量	変1→変11	-3	－	－	可	100	－	－	－	
9	香東支線	66	2	182	91	熱容量	変1→変12	-16	－	－	可	91	－	－	－	
10	高松坂出線	66	4	500	429	熱容量	変1→変15	-286	－	－	可	71	－	－	－	※3
11	高松坂出線	66	4	500	429	熱容量	変1→変15	-268	－	－	可	71	－	－	－	※3
12	高松坂出線	66	4	500	429	熱容量	変1→変15	-249	－	－	可	71	－	－	－	※3
13	端岡支線	66	2	250	125	熱容量	変1→変13	-16	－	－	可	125	－	－	－	※1
14	府中支線	66	2	84	42	熱容量	変1→変14	-12	－	－	可	42	－	－	－	※1
15	大浜線	66	2	158	86	熱容量	変15→変16	-97	－	－	可	62	有り	対象	－	
16	林田線	66	2	158	86	熱容量	変16→変17	-96	－	－	可	62	有り	対象	－	
17	需要家線	66	1	－	－	熱容量	－	－	－	－	－	－	有り	－	送15	◇
18	笠山線	66	2	116	58	熱容量	変15→変18	-51	－	－	不可＃3	－	－	－	－	※1
19	栗林線	66	2	370	185	熱容量	変2→変21	-33	－	－	可	185	有り	－	基送27,28,29	
20	栗林線	66	2	478	217	熱容量	変2→変21	-5	－	－	可	250	有り	－	基送27,28,29	
21	栗林線	66	2	370	185	熱容量	変2→変21	15	－	－	可	185	有り	－	基送27,28,29	
22	由佐支線	66	2	172	86	熱容量	変2→変19	-28	－	－	可	86	有り	－	基送27,28,29	
23	仏生山支線	66	2	116	58	熱容量	変2→変20	-20	－	－	可	58	有り	－	基送27,28,29	
24	栗林中央線	66	3	90	30	熱容量	変21→変7	5	－	－	不可＃1	－	有り	－	基送27,28,29	※1
25	松島線	66	2	112	56	熱容量	変21→変9	0	－	－	不可＃3	－	有り	－	基送27,28,29	※1
26	東浜線	66	2	250	125	熱容量	変2→変22	-65	－	－	可	125	有り	－	基送27,28,29	
28	東浜線	66	2	250	125	熱容量	変2→変22	-65	－	－	可	125	有り	－	基送27,28,29	
29	東浜線	66	1	58	58	熱容量	変2→変10	0	－	－	不可＃1	－	有り	－	基送27,28,29	※1
31	六条支線	66	2	182	91	熱容量	変2→変22	-65	－	－	可	91	有り	－	基送27,28,29	
32	六条支線	66	2	182	91	熱容量	変2→変22	-65	－	－	可	91	有り	－	基送27,28,29	
33	東浜支線	66	1	58	58	熱容量	変2→変10	0	－	－	不可＃1	－	有り	－	基送27,28,29	※1
34	需要家線	66	1	－	－	熱容量	－	－	－	－	－	－	有り	－	基送27,28,29	◇
35	需要家線	66	1	－	－	熱容量	－	－	－	－	－	－	有り	－	基送27,28,29	◇
36	屋島線	66	2	316	158	熱容量	変2→変23	-58	－	－	可	158	有り	－	基送27,28,29	
37	屋島線	66	2	250	125	熱容量	変2→変23	-23	－	－	可	125	有り	－	基送27,28,29	
38	屋島線	66	2	250	125	熱容量	変2→変23	-23	－	－	可	125	有り	－	基送27,28,29	
39	亀田支線	66	2	244	122	熱容量	変2→変27	-35	－	－	可	122	有り	－	基送27,28,29	
40	需要家線	66	1	－	－	熱容量	－	－	－	－	－	－	有り	－	基送27,28,29	◇
41	大川長尾線	66	2	250	125	熱容量	変3→変24	-88	－	－	可	125	－	－	－	
42	長尾線	66	2	250	125	熱容量	変24→変27	-38	－	－	可	125	－	－	－	
43	長尾線	66	2	158	79	熱容量	変24→変27	-20	－	－	可	79	－	－	－	
44	長尾線	66	2	158	79	熱容量	変24→変27	0	－	－	不可＃3	－	－	－	－	※1
45	志度支線	66	2	84	42	熱容量	変24→変25	-19	－	－	可	42	－	－	－	
46	三木支線	66	2	130	65	熱容量	変24→変26	-20	－	－	可	65	－	－	－	※1
47	大内線	66	2	250	125	熱容量	変3→変29	-95	－	－	可	125	－	－	－	
48	大内線	66	2	250	125	熱容量	変3→変29	-77	－	－	可	125	－	－	－	
49	大内線	66	2	250	125	熱容量	変3→変29	-77	－	－	可	125	－	－	－	
50	津田支線	66	2	84	42	熱容量	変3→変28	-18	－	－	可	42	－	－	－	
51	需要家線	66	1	－	－	熱容量	－	－	－	－	－	－	－	－	－	◇
52	板野大内線	66	2	208	104	熱容量	徳島変26→変29	0	－	－	不可＃3	－	有り	－	徳島送55,56	※1
53	板野大内線	66	2	208	104	熱容量	徳島変26→変29	-59	－	－	可	104	有り	－	徳島送55,56	※1
54	板野大内線	66	2	206	103	熱容量	徳島変26→変29	-59	－	－	可	103	有り	－	徳島送55,56	※1
55	引田支線	66	2	84	42	熱容量	徳島変26→変30	-59	－	－	可	42	有り	－	徳島送55,56	※1
56	需要家線	66	1	－	－	熱容量	－	－	－	－	－	－	有り	－	徳島送55,56	◇
57	坂出連絡線	66	2	158	79	熱容量	変2→変15	-83	－	－	可	79	有り	－	基送27,28,29	
58	坂出連絡線	66	2	158	79	熱容量	変2→変15	0	－	－	可	79	有り	－	基送27,28,29	
59	坂出連絡線	66	2	158	79	熱容量	変2→変15	0	－	－	不可＃3	－	有り	－	基送27,28,29	※1

送電線No	送電線名	電圧(kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	潮流方向	予想潮流 (MW)	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御の 可能性	平常時出力制御の可能性がある設備		備考
									当該設備	上位系統考慮				当該設備	上位系設備	
60	綾南支線	66	2	84	42	熱容量	変2→変31	-83	ー	ー	可	42	有り	ー	基送27,28,29	
61	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	有り	ー	基送27,28,29	◇
62	善通寺線	66	2	250	125	熱容量	変4→変32	-31	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	
63	善通寺線	66	2	250	125	熱容量	変4→変32	-31	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	
65	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
67	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	変4→変36	-45	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	※3
68	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	変4→変36	-45	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	※3
69	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	変4→変36	-45	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	※3
70	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	変4→変36	-45	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	※3
71	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	変4→変36	-34	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	※3
72	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	変4→変36	-35	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	※3
73	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	変4→変36	-33	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	※3
74	需要家線	66	1	65	65	熱容量	ー	0	ー	ー	不可＃1	ー	ー	ー	ー	※1
75	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
76	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
77	需要家線	66	1	65	65	熱容量	ー	0	ー	ー	不可＃1	ー	ー	ー	ー	※1
78	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
79	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
80	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
81	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
82	多度津支線	66	2	94	47	熱容量	変4→変33	-8	ー	ー	可	47	ー	ー	ー	※1
83	多度津支線	66	2	94	47	熱容量	変4→変33	-8	ー	ー	可	47	ー	ー	ー	※1
84	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
85	昭和支線	66	2	172	86	熱容量	変4→変34	0	ー	ー	可	86	ー	ー	ー	※1
86	塩屋支線	66	2	158	79	熱容量	変4→変35	-3	ー	ー	可	79	ー	ー	ー	
87	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
88	需要家線	66	1	43	43	熱容量	ー	0	ー	ー	不可＃1	ー	ー	ー	ー	※1
89	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
90	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
91	高瀬線	66	2	116	58	熱容量	変4→変37	-55	ー	ー	可	58	ー	ー	ー	
92	仁尾線	66	2	130	65	熱容量	変4→変39	-30	ー	ー	可	65	ー	ー	ー	
93	仁尾線	66	2	84	42	熱容量	変4→変39	-6	ー	ー	可	42	ー	ー	ー	※1
94	詫間支線	66	2	98	49	熱容量	変4→変38	-24	ー	ー	可	49	ー	ー	ー	
95	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
96	豊中線	66	2	260	130	熱容量	変4→変40	-34	ー	ー	可	130	ー	ー	ー	
97	豊中線	66	2	158	79	熱容量	変4→変40	-13	ー	ー	可	79	ー	ー	ー	※1
98	常磐支線	66	2	250	125	熱容量	変4→変41	-21	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	
99	常磐観音寺線	66	2	182	91	熱容量	変41→変42	-15	ー	ー	可	91	ー	ー	ー	
100	常磐観音寺線	66	2	180	90	熱容量	変41→変42	-15	ー	ー	可	90	ー	ー	ー	
101	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
102	豊浜線	66	2	158	79	熱容量	変4→変44	-48	ー	ー	可	79	ー	ー	ー	
103	豊浜線	66	2	130	72	熱容量	変4→変44	-33	ー	ー	可	58	ー	ー	ー	
104	豊浜線	66	2	130	72	熱容量	変4→変44	-33	ー	ー	可	58	ー	ー	ー	
105	山本支線	66	2	84	42	熱容量	変4→変43	-15	ー	ー	可	42	ー	ー	ー	※1
106	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
107	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
108	番の州線	66	2	362	181	熱容量	変15→変5	0	ー	ー	不可＃3	ー	ー	ー	ー	
109	番の州線	66	2	362	181	熱容量	変15→変5	0	ー	ー	可	181	ー	ー	ー	
110	番の州線	66	2	362	181	熱容量	変15→変5	-3	ー	ー	可	181	ー	ー	ー	
111	番の州線	66	2	248	124	熱容量	変15→変5	-12	ー	ー	可	124	ー	ー	ー	
112	需要家線	66	1	21	21	熱容量	ー	0	ー	ー	不可＃1	ー	ー	ー	ー	※1
113	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
114	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
115	川崎支線	66	2	102	51	熱容量	変15→変45	-3	ー	ー	不可＃3	ー	ー	ー	ー	※1
116	宇多津支線	66	2	250	125	熱容量	変15→変46	-9	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	
117	富士見線	66	2	158	79	熱容量	変46→変47	-3	ー	ー	不可＃3	ー	ー	ー	ー	※1
118	需要家線	66	2	250	125	熱容量	ー	ー	ー	ー	不可＃3	ー	有り	ー	基変31，基送27,28,29	※1

送電線No	送電線名	電圧(kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	潮流方向	予想潮流 (MW)	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御の 可能性	平常時出力制御の可能性がある設備		備考
									当該設備	上位系統考慮				当該設備	上位系設備	
119	需要家線	66	2	250	125	熱容量	ー	ー	ー	ー	不可＃3	ー	有り	ー	基変31，基送27,28,29	※1
120	需要家線	66	2	116	58	熱容量	ー	ー	ー	ー	不可＃3	ー	有り	ー	基変31，基送27,28,29	※1
121	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	有り	ー	基変31，基送27,28,29	◇
122	需要家線	66	2	84	42	熱容量	ー	ー	ー	ー	不可＃3	ー	有り	ー	基変31，基送27,28,29	※1
123	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	有り	ー	基変31，基送27,28,29	◇
124	電源線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	有り	ー	基変31，基送27,28,29	◇
125	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	有り	ー	基変31，基送27,28,29	◇
126	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	有り	ー	基変31，基送27,28,29	◇
127	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	有り	ー	基変31，基送27,28,29	◇
128	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	有り	ー	基変31，基送27,28,29	◇
129	琴平線	66	2	250	125	熱容量	変15→変49	-64	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	
130	琴平線	66	2	182	91	熱容量	変15→変49	-64	ー	ー	可	91	ー	ー	ー	
131	琴平線	66	2	182	91	熱容量	変15→変49	-38	ー	ー	可	91	ー	ー	ー	
132	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
133	垂水支線	66	2	182	91	熱容量	変15→変48	-27	ー	ー	可	91	ー	ー	ー	※1
134	垂水支線	66	2	182	91	熱容量	変15→変48	-27	ー	ー	可	91	ー	ー	ー	※1
135	東丸亀線	66	2	262	131	熱容量	変15→変36	0	ー	ー	不可＃3	ー	ー	ー	ー	※1
136	電源線	22	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	2	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇●
137	需要家線	22	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	6	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇●
138	電源線	22	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	2	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇●
139	電源線	22	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	0	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇●
140	長尾線	66	2	250	125	熱容量	変24→変27	-38	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	
145	坂出連絡線	66	2	158	79	熱容量	変2→変15	-83	ー	ー	可	76	有り	ー	基送27,28,29	
146	電源線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	有り	ー	基送27,28,29	◇
147	電源線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
148	電源線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	有り	ー	基送27,28,29	◇
149	電源線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
150	需要家線	22	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	0	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇●
151	電源線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
152	電源線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	有り	ー	送15,16	◇
153	需要家線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇
154	麻丸亀線	66	4	500	375	熱容量	変4→変36	-45	ー	ー	可	125	ー	ー	ー	※3
155	電源線	66	1	ー	ー	熱容量	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	◇

*1 2028年3月以降の想定を記載しており、それ以前は記載内容と異なる場合があります。また、今後の電源連系等に伴い変更となる場合があります。

変電所No	変電所名	電圧(kV)		台数	設備容量 (100%×台数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	予想潮流 (MW)	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御の 可能性	平常時出力制御の可能性がある設備		備考
		一次	二次						当該設備	上位系統考慮				当該設備	上位系設備	
4	麻変電所	66	6.6	1	14	14	熱容量	−	0	−	不可＃2	−	−	−	−	●
5	坂出火力変電所	66	22	1	−	−	熱容量	−	−	−	−	−	有り	−	基変31，基送27,28,29	◇
6	西通変電所	66	22	1	42	42	熱容量	1	−	−	不可＃2	−	−	−	−	
6	西通変電所	66	6.6	2	57	57	熱容量	−	57	−	不可＃2	−	−	−	−	●
7	高松中央変電所	66	6.6	3	61	61	熱容量	−	61	−	不可＃2	−	有り	−	基送27,28,29	●
8	丸の内変電所	66	6.6	3	28	28	熱容量	−	28	−	不可＃2	−	−	−	−	●
9	松島変電所	66	22	1	42	42	熱容量	2	−	−	不可＃2	−	−	−	−	
9	松島変電所	66	6.6	2	47	47	熱容量	−	47	−	不可＃2	−	−	−	−	●
10	東浜変電所	66	6.6	3	76	76	熱容量	−	75	−	不可＃2	−	−	−	−	●
11	上天神変電所	66	22	1	−	−	熱容量	−	−	−	−	−	−	−	−	◇
11	上天神変電所	66	6.6	2	38	38	熱容量	−	35	−	不可＃2	−	−	−	−	●
12	香東変電所	66	22	3	42	19	熱容量	6	−	−	不可＃2	−	−	−	−	増強計画考慮(2026/12運開予定)
12	香東変電所	66	6.6	3	52	52	熱容量	−	36	−	不可＃2	−	−	−	−	●
13	端岡変電所	66	6.6	2	33	33	熱容量	−	7	−	不可＃2	−	−	−	−	●
14	府中変電所	66	22	1	−	−	熱容量	−	−	−	−	−	−	−	−	◇
14	府中変電所	66	6.6	2	28	28	熱容量	−	9	−	不可＃2	−	−	−	−	●
15	坂出変電所	66	6.6	2	28	28	熱容量	−	1	−	不可＃2	−	−	−	−	●
16	大浜変電所	66	6.6	3	42	42	熱容量	−	42	−	不可＃2	−	有り	−	送15	●
17	林田変電所	66	6.6	2	28	28	熱容量	−	10	−	不可＃2	−	有り	−	送15,16	●
18	笠山変電所	66	22	1	−	−	熱容量	−	−	−	−	−	−	−	−	◇
18	笠山変電所	66	6.6	2	28	28	熱容量	−	28	−	不可＃2	−	−	−	−	●
19	由佐変電所	66	6.6	3	52	52	熱容量	−	7	−	不可＃2	−	有り	−	基送27,28,29	●
20	仏生山変電所	66	6.6	3	57	57	熱容量	−	37	−	不可＃2	−	有り	−	基送27,28,29	●
21	栗林変電所	66	6.6	3	76	76	熱容量	−	76	−	不可＃2	−	有り	−	基送27,28,29	●
22	六条変電所	66	6.6	1	19	19	熱容量	−	14	−	不可＃2	−	有り	−	基送27,28,29	●
23	屋島変電所	66	6.6	3	76	76	熱容量	−	53	−	不可＃2	−	有り	−	基送27,28,29	●
24	長尾変電所	66	6.6	3	57	57	熱容量	−	7	−	不可＃2	−	−	−	−	●
25	志度変電所	66	6.6	3	47	47	熱容量	−	28	−	不可＃2	−	−	−	−	●
26	三木変電所	66	6.6	1	19	19	熱容量	−	5	−	不可＃2	−	−	−	−	●
27	亀田変電所	66	6.6	3	47	47	熱容量	−	12	−	不可＃2	−	有り	−	基送27,28,29	●
28	津田変電所	66	6.6	2	23	23	熱容量	−	5	−	不可＃2	−	−	−	−	●
29	大内変電所	66	6.6	3	52	52	熱容量	−	25	−	不可＃2	−	−	−	−	●
30	引田変電所	66	6.6	2	19	19	熱容量	−	3	−	不可＃2	−	有り	−	徳島送55,56	●
31	綾南変電所	66	6.6	3	52	52	熱容量	−	19	−	不可＃2	−	有り	−	基送27,28,29	●
32	善通寺変電所	66	6.6	3	52	52	熱容量	−	41	−	不可＃2	−	−	−	−	●
33	多度津変電所	66	6.6	3	47	47	熱容量	−	36	−	不可＃2	−	−	−	−	●
34	昭和変電所	66	6.6	2	28	28	熱容量	−	28	−	不可＃2	−	−	−	−	●
35	塩屋変電所	66	6.6	3	42	42	熱容量	−	40	−	不可＃2	−	−	−	−	●
36	丸亀変電所	66	22	1	−	−	熱容量	−	−	−	−	−	−	−	−	◇
36	丸亀変電所	66	6.6	3	57	57	熱容量	−	51	−	不可＃2	−	−	−	−	●
37	高瀬変電所	66	6.6	2	28	28	熱容量	−	8	−	不可＃2	−	−	−	−	●
38	詫間変電所	66	22	1	14	14	熱容量	−9	−	−	不可＃2	−	−	−	−	
38	詫間変電所	66	6.6	2	28	28	熱容量	−	13	−	不可＃2	−	−	−	−	●
39	仁尾変電所	66	6.6	2	16	16	熱容量	−	5	−	不可＃2	−	−	−	−	●
40	豊中変電所	66	22	1	9	9	熱容量	1	−	−	不可＃2	−	−	−	−	
40	豊中変電所	66	6.6	2	28	28	熱容量	−	7	−	不可＃2	−	−	−	−	●
41	常磐変電所	66	6.6	2	38	38	熱容量	−	32	−	不可＃2	−	−	−	−	●
42	観音寺変電所	66	22	2	19	9	熱容量	1	−	−	不可＃2	−	−	−	−	
42	観音寺変電所	66	6.6	3	42	42	熱容量	−	28	−	不可＃2	−	−	−	−	●
43	山本変電所	66	6.6	2	33	33	熱容量	−	7	−	不可＃2	−	−	−	−	●
44	豊浜変電所	66	22	2	21	11	熱容量	−10	−	−	不可＃2	−	−	−	−	
44	豊浜変電所	66	6.6	3	52	52	熱容量	−	29	−	不可＃2	−	−	−	−	●
45	番の州変電所	66	6.6	2	19	19	熱容量	−	16	−	不可＃2	−	−	−	−	●
46	宇多津変電所	66	6.6	3	47	47	熱容量	−	41	−	不可＃2	−	−	−	−	●
47	富士見変電所	66	6.6	2	23	23	熱容量	−	21	−	不可＃2	−	−	−	−	●
48	垂水変電所	66	6.6	1	19	19	熱容量	−	6	−	不可＃2	−	−	−	−	●
49	琴平変電所	66	22	1	−	−	熱容量	−	−	−	−	−	−	−	−	◇
49	琴平変電所	66	6.6	3	47	47	熱容量	−	18	−	不可＃2	−	−	−	−	●